

# 東日本大震災 災害救援レポート 12



大船渡市 永沢仮設住宅にて住民の方々と交流の時

## 加須市



旧騎西高校の避難所を訪問、日用品や水を届け、ドリンクサービスをおこなった



## 大船渡市



↑たくさんの子どもも集まった夏祭り  
暑中、かき氷が→大好評

## 陸前高田市



↑手作り帯広名物豚丼を提供



バイオリン型の花をプレゼント

見た目も楽しい七夕を表したかき氷を提供

## 陸前高田市



高田保育園に提供したタオルケット。子どもたちのお昼寝用に使われている



障がい者支援施設に、花屋さん提供のケーキ型の花を届けた



陸前高田市 「ずらんとかたつむり」のソフトクリーム販売も順調



陸前高田市 フェンスの中では中学生が部活の野球を



女川漁協に提供された作業船

## 視察の様子



気仙沼市 気仙沼漁協へ提供した作業用テント



女川町・出島で 支援した作業船に乗り、離島の出島を訪れ、視察

## 宮城県庁



宮城県庁では、今後の支援について話し合った



被災地では、大震災後、二度目の夏。救世軍では、現地の要請に応じて、被災地復興と、被災された方々の精神的なケアの必要を覚えつつ、活動を続けている。

五月には、関東東北チームが、原発事故のため福島県双葉町から避難し、埼玉県加須市の旧騎西高校校舎で一年以上避難生活を続けている人々を訪問。日用品の提供とドリンクサービスをおこない、人々の話を伺った。六月には、北海道チームが、岩手県陸前高田市と宮城県名取市周辺の仮設住宅や仮設団地を訪問し、「ホッと息をテーマに、食事会、さんぽ作りやコンサートなど、交流をしながら心の触れ合う時をもった。

七月の初めには、JEA（日本福音同盟）が主催した災害対応チャペルの養成のためのフォーラムに先立ち、講師として来日したケビン・エラーズ氏（米国中央軍の災害支援コーディネーター）一行が、被災地の視察と、岩手県大船渡市の永沢仮設住宅で、被災者とお茶を飲みながら交流の時をもった。東京の御茶の水クリスチャン・センターで開催されたフォーラムでは、エラーズ氏が作成した災害対応教育プログラムの概要が伝えられ、さらに日本の現状に合わせた教材作りのために、グループワーク発表・質疑応答がなされた。救世軍からも、震災支援事務局長ほか、本営や連隊本部からの公式参加者五人に加え、数名が参加した。

物的支援としては、八月までに、陸前高田市の高田保育園にお昼寝用タオルケット、矢作小学校に体育館の暗幕と、社会福祉協議会へテントを二張、提供。

八月初め、関東東北チームは、大船渡市の永沢仮設住宅にかけ、「救世軍夏祭り」をおこなった。事前に地元のボランティアから仮設住宅の人々だけでなく、近隣に住んでいる人々にも呼びかけがなされ、当日は、地域の学童クラブの子どもたちも参加。約二百人の人々が、かき氷や綿菓子、ヨーヨー釣り、バンド演奏などを楽しんだ。

中旬には、救世軍万国本営（ロンドン）緊急支援部からスタッフが派遣され、現在までおこなわれた支援プロジェクトの報告と会計検査、そして被災地での支援状況確認の視察がおこなわれた。その結果、大きなプロジェクトから小規模なものまで、救世軍によって提供されてきたものが、現在も有効に用いられていることが確認された。



大船渡市 仮設商店街が地域で活かされている様子を視察



南三陸町



女川町

皆様のご支援、ご協力を  
心から感謝申し上げます。

お問い合わせ、ご献金は……  
救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17  
http://www.salvationarmy.or.jp TEL 03-3237-0881